

公益財団法人みちのく未来基金
代表理事および業務執行理事業務報告書
(報告対象期間:平成26年10月～平成27年9月)

【奨学金給付事業関連】

1. 奨学金の給付状況

第1期生から第4期生までの奨学生に対し、奨学金の給付を実施いたしました。

① 給付人数

第4期給付対象人数および第5期における給付申請状況は以下の通りです。

◆第4期給付対象者数 (単位:人)

	合計	岩手県	宮城県	福島県	3県以外
合計	328	125	174	18	11
国公立大学	52	33	15	2	2
私立大学	184	57	108	11	8
短大・専門学校	92	35	51	5	1

【内訳】

		合計	岩手県	宮城県	福島県	3県以外
合計	1期生	49	22	23	3	1
	2期生	82	28	48	4	2
	3期生	95	43	39	9	4
	4期生	102	32	64	2	4
国公立大学	1期生	11	6	3	1	1
	2期生	16	10	6	0	0
	3期生	19	14	4	1	0
	4期生	6	3	2	0	1
私立大学	1期生	38	16	20	2	0
	2期生	52	15	33	3	1
	3期生	43	14	20	5	4
	4期生	51	12	35	1	3
短大・専門学校	1期生	0	0	0	0	0
	2期生	14	3	9	1	1
	3期生	33	15	15	3	0
	4期生	45	17	27	1	0

※平成27年9月末現在

第1期生 人数

平成27年9月末現在、奨学金給付を行っている人数は49名です。第1期生受給者数は96名で、3名が平成25年3月に卒業、23名が平成26年3月に卒業、6名が平成27年3月に卒業、15名が自主退学等の理由により給付辞退し、現在は49名となりました。

第2期生 人数

平成27年9月末現在、奨学金給付を行っている人数は82名です。第2期生受給者数は124名で、3名が平成26年3月に卒業、22名が平成27年3月に卒業、17名が自主退学等の理由により給付辞退または給付中止となり、現在は82名となりました。

第3期生 人数

平成27年9月末現在、奨学金給付を行っている人数は95名です。第3期生受給者数は107名で、3名が平成27年3月に卒業、11名が自主退学等の理由により給付辞退、追加登録が2名あり、現在は95名となりました。

第4期生 人数

平成27年9月末現在、奨学金給付を行っている人数は102名です。

基金発足時から現在までのところ、第1期生から第4期生への延べ給付人数は431名です。

	合計	岩手県	宮城県	福島県	3県以外
合計	431	149	243	25	14
1期生	96	35	54	6	1
2期生	124	37	77	6	4
3期生	109	46	49	10	4
4期生	102	31	63	3	5

・第5期給付者総数見込み

第5期については平成28年3月に84名が卒業予定で、第5期生としての新規給付予定者が96名いるため、平成28年4月時点では、第1期生～第5期生合計で約340名の給付人数になる見込みです。

② 給付金額

第5期奨学金給付予定金額

第1期生への年間給付予定金額	4,600千円
第2期生への年間給付予定金額	72,600千円
第3期生への年間給付予定金額	67,800千円
第4期生への年間給付予定金額	109,200千円
第5期生への年間給付予定金額	127,200千円
上記計給付予定金額総計	381,400千円

第5期の給付金額については381,400千円になる見込みです。この約3.8億円の試算をベースに年間の資金繰りを行ってまいります。

2. 第5期生の募集状況

高校3年生の進路決定時期が夏休みであることから、夏休みまでに給付内定を出すために、4月より第5期生の募集を開始いたしました。

◆第5期奨学金給付希望者数（単位：人）

進学希望先区分	合計	岩手県	宮城県	福島県	3県以外
合計	105	39	50	9	7
国公立大学	23	8	13	1	1
私立大学	46	12	26	3	5
短大・専門学校	31	16	11	3	1
志望校未定	5	3	0	2	0

※上記は9月末時点での奨学金給付希望者で、合格後に奨学金が給付されます。

基金の調査では、平成28年春高校卒業予定の震災遺児は126名で、そのうち進学希望者は99名です。また、平成27年春以前に高校を卒業し現在浪人中の進学希望者が6名います。第5期生としての奨学金給付希望者数は合計105名となります。

3. 岩手・宮城・福島3県以外での対象者の確認

厚生労働省が平成25年9月時点の震災遺児の居住地状況を把握したデータから、岩手・宮城・福島の被災3県以外の都道府県に震災遺児が121名いることがわかりました。基金でも昨年に引き続き、独自に該当各県の行政窓口、教育委員会、里親会、避難者支援団体、赤い羽根共同募金等、様々な機関へのアプローチを実施した結果、被災3県以外の小学生20名、中学生32名、高校生15名の震災遺児計67名が判明し、必要な情報を届けております。特に、赤い羽根共同募金との連携により、震災遺児の把握が進展いたしました。

4. 選考委員会開催

内閣府の公益法人(助成型)の認可要件として、奨学生の認定について公平性・公正性の担保という観点から選考委員会の設置が求められております。これに基づき以下の様に選考委員会を開催いたしました。

「第5期生選考委員会」

平成27年8月22日(土) 11:00~12:30 (於:ホテルメトロポリタン仙台 桃李)

・出席委員

杉 昭重 福島県教育委員会 教育長 ・ 元福島県立安積黎明高等学校 校長
庄司 恒一 元宮城県高等学校長協会 会長 ・ 元宮城県仙台第二高等学校 校長
高橋 和雄 元岩手県高等学校長協会 会長 ・ 元岩手県立盛岡第一高等学校 校長

・事務局

長沼孝義、竹中俊之、末田隆司、佐藤清

第5期奨学金給付対象者(平成28年4月からの奨学金給付開始者)の確認について、東日本大震災の遺児であることおよび進学先についての承認を委員の方々に諮り、異議なく承認いただきました。

5. 「第4期生の集い」の実施

平成27年3月13日から14日にかけて「みちのく未来基金 第4期生の集い」を実施いたしました。今回の集いのテーマは【つながる・広がる・深め合う】。奨学生同士やサポーターの皆様との出会いからつながりが生まれ、やがてそれが広がりや深まりとなっていったほしい、そんな思いを込めて開催し、第4期生102名のうち64名が参加してくれました。

今年も第1期生～3期生併せて53名がスタッフとして参加してくれました。「みちのく未来基金は家族同様。気兼ねなく交流できる場を後輩にも」「支援いただいた方々に直接お礼を伝えたい」という強い気持ちで、緊張気味の4期生をリードする、頼もしいお兄さん・お姉さんぶりを発揮してくれました。昨年に引き続き、第2期生の一人が集いの【わ】をモチーフとしたマークをデザインしてくれ、集いのシンボルとしてスタッフジャンパー等に用いました。

集いの1日目にはスタッフ手作りのレクリエーションと「語りの時間」を実施、2日目には一人ひとりの夢を発表する「門出の会」を開きました。

また、平成27年3月に短大・専門学校を卒業した第1期生～3期生のために「旅立ちの会」を行い、卒業生30名のうち7名が参加してくれました。一人ずつ学生生活を振り返りながら、感謝の気持ちと社会へ旅立つ決意を語ってくれました。

「みちのく未来基金ではたくさんの友だちができた。4期生も出会いを大切に楽しんでほしい」

「サポーターの皆様のおかげで、照明の仕事に関わるという夢がかなった」

「みちのく未来基金のおかげで看護学校を卒業し、看護師として宮城の病院で働きます」

などの言葉がありました。

6. 年次面談の実施

平成26年11月から12月にかけて、盛岡・仙台・東京の3会場において奨学生全員との面談を実施しました。この面談は基金スタッフが全ての奨学生と直接触れ合える年に一度の機会であり、学生生活の様子や困りごとなどを聞き、奨学生の心のケアにつなげることを目的としています。面談前後には待合スペースでの奨学生同士の話も弾み、交流のきっかけとなりました。

7. 夏の交流イベントの実施

奨学生同士の定期的な交流促進のため平成27年6月14日に仙台と東京の2会場にて夏の交流イベントとしてバーベキュー大会を実施し、両会場併せて奨学生41名が参加しました。

また、8月9日から10日にかけて、1泊2日で山形にて「夏の集い」を実施し、奨学生26名が参加しました。チーム対抗でのゲームや「語りの時間」などを実施しました。

これらのイベントはいずれも、3月の集いで生まれた奨学生同士のつながりを継続させていくきっかけにすることを目的としたものです。イベント開催中には先輩・後輩を問わずお互いに和気あいあいと過ごす様子が見られ、交流が深まっていました。

8. みちのく未来基金 SNS の活用

平成24年3月より、奨学生同士の交流促進を目的に専用のソーシャルネットワークサイトを開設いたしました。奨学生および基金関係者のみ利用可能であるクローズドな空間を構築することで、安心して交流できる環境を整えています。基金からの事務連絡や奨学生同士の交流のツールとして、今後も機能の拡充を図りながら継続活用していきます。

また基金の専用SNSとは別に、最近では奨学生がLINEを用いて自主的なコミュニケーションを活発

に行っており、奨学生同士の交流に広がりが出てきています。

9. 短期集中業務における奨学生との協働

これまで、みちのく未来通信の発送作業や集い前の準備物作成等の短期集中業務については、奨学生のボランティア協力を募っておりましたが、平成 27 年より新しい取り組みとして、アルバイトとしての給与を支払うこととしました。アルバイト給与は宮城県の最低賃金を下回らないよう、時給 710 円に設定しました。これまでに延べ 33 名の奨学生が参加し、各自の都合に応じて業務を行ってくれました。短期集中業務を円滑に遂行するため、今後も奨学生との協働を進めてまいります。

【法人運営関連】

10. 寄附金受入状況

寄附金内訳(第 4 期平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日迄累計)

	金額(千円)	金額比率	件数	件数比率	人数・法人数等	人数・法人数等比率
個人	150,790	26%	8,943	91%	1,886	83%
法人	394,151	67%	645	7%	250	11%
団体	45,465	8%	185	2%	136	6%
計	590,407	100%	9,773	100%	2,272	100%

基金発足時から平成 27 年 9 月 30 日まで、通期では約 21 億円の寄附が集まっている状況であり、発起 3 社を除いても約 17 億円の寄附をいただいております。第 4 期は約 5.9 億円の寄附をいただきました。また、支援企業として新規に寄附申請いただいた 9 社を加え、支援企業・団体数は 62 社となっております。

寄附者の皆様の高い志に感謝するとともに、いただいた寄附を子どもたちのために大切に使用してまいります。

11. 広報活動

①みちのく未来通信の発行

寄附者や奨学生等の基金関係者に対してみちのく未来基金の現状をお伝えする広報誌「みちのく未来通信」を、平成 27 年 1 月(第 9 号)、平成 27 年 4 月(第 10 号)、平成 27 年 9 月(第 11 号)に発行いたしました。今後も年間 3 回の発行を継続いたします。

②各種取材・訪問対応

平成 26 年 10 月・12 月にそれぞれ宮城県知事と岩手県知事を 2 名の奨学生とともに訪問し、取材を受けました。平成 27 年 3 月実施の第 4 期生の集いに関しては NHK ニュース番組を始め、多くの報道局で紹介されました。

またラジオ放送では、平成 26 年 10 月に J-WAVE、同年 11 月に NHK 福岡放送局、平成 27 年 2 月に NHK 仙台放送局にて、みちのく未来基金について紹介いただきました。

この他にも各種企業・団体からの問い合わせや取材、各社訪問に関して、長沼・竹中を中心に対応いたしました。

③「みちのく未来基金設立の記録」の刊行

平成 27 年 6 月に小冊子「みちのく未来基金設立の記録」を刊行いたしました。基金発足の経緯が

ら「第1期生の集い」開催までの歩みを中心に記したもので、希望者には無償で配布を行っております。基金の設立に込められた思いを伝えていくためのツールとして、今後も活用してまいります。

④基金ホームページの部分改訂

基金のホームページについては日々の問い合わせ、および新項目の設置により部分改訂を随時行っております。ホームページのトップ画面を改訂し、また「設立の記録」刊行に伴い、告知文および専用ページを追加いたしました。

⑤フェイスブック

月2~3回の頻度で記事の更新を行い、閲覧回数を増やすようにしております。フェイスブックを通じて「設立の記録」の送付要望を多数いただいております。

12. 第5期事業計画および収支予算の策定

事業年度末までに内閣府に提出する第5期の事業計画および収支予算の策定を行いました。

13. みちのく未来基金の現行運営スタッフ体制について

平成27年3月以降、スタッフ派遣企業の定期異動等により、下記のメンバーの変更がありました。

- ① カルビー株式会社の安井正紀が平成27年3月に基金業務を離れ、新たに佐藤篤子がみちのく未来基金スタッフに加わりました。
- ② カゴメ株式会社の北岡祐治が平成27年3月に基金業務を離れ、新たに末田隆司がみちのく未来基金スタッフに加わりました。
- ③ ロート製薬株式会社の中村杏菜が平成27年6月に基金業務を離れ、新たに柴田春奈がみちのく未来基金スタッフに加わりました。
- ④ 契約職員の大内日花里が平成27年8月に退職し、佐藤美甫が派遣社員として平成27年4月よりみちのく未来基金スタッフに加わりました。

平成27年9月末現在のみちのく未来基金事務局のスタッフ構成及び業務担当は以下の通りです。

<みちのく未来基金事務局>

長沼 孝義	: 代表理事(業務執行全体責任者)
竹中 俊之(エバラ食品工業株式会社)	: 業務執行理事(全体統括)
齋藤 雅子(カルビー株式会社)	: 事務局統括(奨学金管理・各種窓口対応)
佐藤 清(カゴメ株式会社)	: 学校訪問統括(岩手県および宮城県気仙沼エリア担当)
瀬川 敏克(ロート製薬株式会社)	: 事務局(寄附金管理・各種窓口対応)
末田 隆司(カゴメ株式会社)	: 事務局(業務全般) 新任
佐藤 篤子(カルビー株式会社)	: 学校訪問(福島県および宮城県石巻エリア担当) 新任
柴田 春奈(ロート製薬株式会社)	: 学校訪問(仙台近郊エリア担当) 新任
佐藤 美甫(派遣社員)	: 事務局(総務経理事務) 新任

以上